



FD（ファカルティ・ディベロップメント）とは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称です。本学では、授業アンケート、FD講演会など、各種FD活動を実施しています。

今回は、2022年度活動実施内容等についてお届けします。

『FDニュースレター』は、年次報告として、FDに関する情報を取り纏め、情報を共有することにより、それぞれの活動を組織的な活動へと発展させるための一助として発行しています。

2022年度 活動計画

FD講演会等の実施

（※組織的なFDとするために、各種委員会と協働して開催）

☆全学教員協議会 2022年6月4日（土）

☆FD講演会（日程・テーマ未定）を今年度も行うこととし、報告会を行います。

大学教育学会への参加

☆大学教育学会大会（6月）及び課題研究集会（11月）への参加者募集を今年度も行うこととし、報告会を行います。

各種FD活動の報告

☆教員間で実施される、基礎ゼミ・語学会議・学科会議等の中で行われるFD活動および教育改革に関するプロジェクトについて支援を行うとともに、実施後に提出される報告書を取りまとめ全体的に情報を共有しています。

公開授業

☆昨年度に引き続き、公開授業を実施する予定です。同じ科目等を担当する教員間で、授業参観のあと、授業運営手法や評価方法のすり合わせなどを実施します。

学生による授業アンケート(Web形式)

☆今年度も各セメスターの期末頃に実施予定です。

学生による授業アンケートの科目毎の選択質問項目の集計結果（詳細）は、『学生による授業アンケート結果』（冊子）として、図書館で閲覧することができます。またアンケート結果を各教員にフィードバックし、コメントシートにて各自の所見・改善点等を提出していただいています。

教育改革に関するプロジェクト

☆今年度は、3件のプロジェクトが進行中です。

- AWSを利用した教育環境整備、マニュアル作成及び集中講座の実施
- Raspberry Piを用いた実践的情報・IoT教育実施環境の整備と実施
- 「近代文学研究入門」に関する教科書活用による授業改善の取組

新規採用教員説明会

☆新任教員に対し、本学の建学の理念や教育研究に対する考え方、ディプロマポリシーの説明など、本学の教員として必要な姿勢等に関する説明会を毎年度4月1日に実施しています。

全学教員協議会開催報告

2022年6月4日（土）に全学教員協議会を開催しました。

（Webexを利用したオンラインと会場での対面開催）

当日は、教員67名・事務職員10名が参加しました。

1. 学長基調講演 「目の前の課題と持つべき展望—4年間の改革とその後—」 学長 江藤 茂博
2. FD報告会
 - ①「Live Campus次期教務システムについて—アンケート集計結果と今後の展開」
教学事務部長 飛田 正太郎
 - ②ハラスメント防止について
ハラスメント防止委員長 改田 明子
 - ③FD事務担当部門報告
 - ・授業アンケートの分析結果
 - ・科研費の応募について

【全学教員協議会を終えて】

今年度の基調講演では、大学が目指すべき方向性について、2040年度に向けてより具体的な内容を共有する良い機会となりました。FD報告会では、Live Campus次期教務システムについて、アンケートに基づいて改善される点などの情報共有を行いました。ハラスメント防止についての報告は、教員が学生と接するときに注意すべき点と取り組みについて再確認しました。ほか、授業アンケートの分析結果、科研費応募の変更点などの説明がありました。

大学教育学会に参加して

本学はFD活動の一環として、大学教育学会の団体会員になっています。

今年度の大学教育学会第44回大会が、6月4日～5日に岡山理科大学にて開催されました。

対面で1名、オンラインでは2名の教員が参加しています。

《参加教員の報告・所感》

6月4日（土）、5日（日）の両日に開催された大学教育学会第44回大会の1日目のみオンラインで出席しました。今回統一テーマは「大学教育のDX—テクノロジーがもたらす大学教育のイノベーション—」です。

基調講演で、筑波大学准教授かつメディアアーティストとして活躍中の落合陽一氏が「『魔法の世紀』の大学教育ビジョン」と題し、自らの教育・創作活動と社会のデジタル化の流れを語りました。『魔法の世紀』は氏の著書名で、デジタル化が進んだ21世紀のことを指しています。

続くシンポジウムは標題「DXは大学教育にどのようなイノベーションをもたらすのか？」で、京都大学教授の梶田将司氏による大学のDX化に伴う諸問題の解説、デジタルハリウッド大学准教授の茂出木謙太郎氏によるアバターのオンライン授業での活用、早稲田大学職員の神馬豊彦氏による組織的取り組みの報告の後、パネル・ディスカッションが行われました。

国文学科 教授 五月女 肇志

6月4日（土）の午前のラウンドテーブルでは、私も企画者である「一般教育の知的遺産を活かす その13 教養教育としてのインターンシップ」に参加した。岡山県内15大学が連携して作り上げたインターンシップや名古屋商科大学のインターンシップの成果を共有し、インターンシップの適当な時期や、専門教育の欠如態として、インターンシップが有効であることを確認した。

午後の落合陽一氏の講演と、シンポジウムでは、どちらも①デジタイゼーション、②デジタライゼーション、③DXの違いを認識し、段階化して進んでいくことが必要であることが強調されていた。本学では、教学DXが推進される中、まだ会議などがデジタイゼーションもされていない状況で、非常に参考になるものとなった。

国文学科 教授 塩沢 一平